

# 中小企業ものづくり力向上講座

生産現場でものづくりに従事する者にとって、時代の要求に合った「新製品開発」、「品質管理」、「製品設計」、管理の基本となる「5S活動」、生産のリードタイムを短くする「IT導入・活用」などの知識を習得することは、加工技術・技能を修得することと同様に必要なことです。本セミナーは、以上の考え方のもとに中小企業における製品開発力、生産管理能力、信頼性の向上を図るために、ものづくりに携わる人材の育成講座として、京都府中小企業技術センター中丹技術支援室において、6月18日から7月23日までの間、5回シリーズで「中小企業ものづくり力向上講座」と題して開催しました。受講者は延べ142人でした。



## 第1回 「新製品開発」 6月18日(金)

講師 (有)坂井経営技術研究所 坂井 公一 氏

新製品開発の事例として、携帯電話、薄型テレビなど身近なものから、クラウドコンピューティング、スマートグリッド、高速鉄道などに及ぶ大規模インフラシステムまで取り上げて、①電子機器分野の新製品開発動向 ②新製品を造る技術の革新 ③新製品開発における安全基準 ④新製品開発に不可欠な知的財産権 ⑤新製品を売り切るマーケティングなどについて解説がありました。世界標準を取る上での、日本における「新製品開発」の現状と課題がよく理解できました。

## 第2回 「品質管理」 7月2日(金)

講師 (有)長田経営研究所 長田 徹 氏

品質管理の歴史的経緯を知り、「品質管理とは何か」その本質的な意味について学ぶとともに、品質管理の進め方として、①PDCAを回す。②品質はプロセスで作り込む。③問題発生時には迅速な応急対策を施し、並行して歯止め策を考え再発防止を図る。④品質管理はデータで語る。そのためにはQC7つ道具や統計的手法が有効であることなどを学びました。QCサークル活動など小集団活動の衰えが危惧されている昨今、「日本の誇りは現場力!」であるとの激励を受けました。

## 第3回 「製品設計」 7月9日(金)

講師 (有)テクノ・コンサルティング 藪野 嘉雄 氏

重大事故の発生状況、製造物責任(PL)法による訴訟例、製品安全4法などの解説があり、「製品設計」でまず重要なことは安全設計であることを学びました。PL法、ISO9001の時代に、ものができてから検査、評価しているのではすでに遅い、なるべく源流管理で抑えていくべきだとの考えのもと、効果的なデザインレビュー(DR)についても学びました。DRのための基本技法としてはFMEA(故障モードと影響解析)、FTA(故障の木解析)などの手法を作表方法とともに学びました。

## 第4回 「5S活動」 7月16日(金)

講師 (有)テクノ・コンサルティング 藪野 嘉雄 氏

5Sとは整理・整頓・清掃・清潔・躰のことであるが、「5S活動」はその効果を定量的に把握できないためにややもすると観念論に陥りやすい。しかし「すべての活動のベース」であり、企業体質強化の基礎活動として実践することが重要であること。①整理:不要品の一扫と発生源対策、②整頓:スッキリ職場づくりと機能的な置き方、③清掃:クリーン化、④清潔:目で見える管理と色彩管理、⑤躰:規律ある職場づくり、これらについて、その考え方と具体的な実践方法について学びました。

## 第5回 「IT導入と活用」 7月23日(金)

講師 (有)田村システム研究所 田村 順造 氏

IT社会に組み込まれている現代、企業が生産性を向上させるためにITを活用できるようにすることは必須の条件である。しかし、ITシステムを導入する以前に、ITシステムについて理解し、それにふさわしい「仕事の仕組み作り」をしなければならないことを学びました。ITシステム概念理解のために、LAN・WAN・インターネットなどのネットワーク、あるいは端末の入出力装置、生産管理のためのデータベースや開発・設計のものづくり現場で使われるCAD・CAMなどのアプリケーションについて、その基礎を学びました。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター  
中丹技術支援室

TEL:0773-43-4340 FAX:0773-43-4341  
E-mail: chutan@mtc.pref.kyoto.lg.jp